

小夏の候、鈴木先生、ペアレンツキャンプの
皆様におかれましては、ますますご健勝のことと
お喜び申し上げます。

鈴木先生は、この2年間、私にとり先生であり、
家族であり、戦友であり、ママ友でありました。

最後の電話カウンセリングの日、電話を切った後、
まるでドラえもんが棘に帰ってしまつたかのような、バに
は、カツ穴が開いた、そんな気持ちになりました。

我が家のトラブルに突然現れてくれたドラえもんが
あの手この手で私たち家族を助け、最後は「のび太
君も野比家ももう大丈夫だよ」と棘に帰ってほう。
それくらい我が家にとり、この2年間は忘れられない
出来事です。

中1のGW最終日、息子が突然「学校に行きたくない」
と言ひ出しました。

私は息子にその理由を聞き続け、担任に登校できず為の
対応をお願いし、気分転換にとランニング、息子の

行きたい場所へ連れて行き、スマホやゲームをやらせ、今思えば過保護過干渉、ごますりといった子ども優位の対応ばかりでした。その結果、良くなるどころか、五月雨登校、すぐに機嫌を損ねる部屋に閉じこもる、床や壁を段る、昼夜逆転...状況は悪化していく一方でした。

私は息子のためにこんなに一生懸命行動しているのに、どうして息子の状態は悪くなっていくのだろう、この先息子はどうなってしまうのだろう、それを見ている兄弟まで学校に行きたくないと言い出し、家族全員どうなってしまうのだろう、他の子たちはなぜ普通に学校に通っているのだろうと、世の中から色が無くなった気分でした。

そこからスクールカウンセラーに相談するのか、心療内科を受診するのか、遠いどこかに預けるのか...とにかく毎日調べ続けました。その時に「復学支援」という言葉を知り、ペアレンツキャンプにたどり着きました。

すぐに支援を受ける事を決意し、まずは家庭教育支援コースからお願いすることにしました。

不登校の本を読み漁った時に、夫婦共々、過保護、過干渉である事に気付きましたが、何から手をつけたら良いのかわかりません。まずは言われた通り毎日家庭ノートの記入。子どもと会話をしながら内容も記憶するという事に初めは戸惑いましたし、メンテイ(命令・指示・提案)ばかりしてきた私にとって、それらが使えない状況となると、言葉に詰まることも多々ありました。ですが鈴木先生の丁寧でわかりやすい家庭ノートの添削、週に1度の電話カウンセリングで相談するうちに、自分の武器や防具が少しずつ増えていった気がしました。

それでも今までの子ども優位の対応から大人優位の対応に変えるにあたり、息子からの反発はものすごく、本人の意にそぐわない時は特に私に対して、ものすごいエネルギーと執着心で反発してきました。その度に何度も鈴木先生に弱音を吐いたり、ぐりをこぼしたりしましたが、鈴木先生はそのたびに一緒に伴走してくれるかのように支え、励ましてくれたり、時には息子の立場からの意見を伝えてくれたり、私自身の気付きもありました。

「こんな対応をしてしまつたら、息子がキレてまた学校に行かなくなってしまうのではないかと、鈴木先生のアドバイスに自信が持てなかつたり、バカが折れて逃げたしたくなる時もありましたが、それでも「自分が望んでペアレンツキャンプを選択したんだ！これをやめダメなら鈴木先生がまた一緒に考えてくれる！それで不登校になつたとしても復学支援コースに移行して最終手段の佐藤先生がいくら出る！」と自分に言い聞かせ、何度もセツフを練習して逃げずに挑みました。うまく言えなかつたり、言い返せなかつたり、言い負かされたり...自己嫌悪になることもありましたが、「ブレない」という事だけを頭に入れて対応を続けまくるうちに、いつの間にか息子の反発も少なくなつていったと思います。

継続登校も安定してきて、支援を受けながら1年経つ頃卒業のお話をいただきました。しかし、同時に息子の持病が悪化し、その対応も含めて支援の継続をお願いしました。不登校とは全く異なる守備範囲外の

対応だ、たと思いますが、そこも家庭教育の観点を
ベースに対応策を模索していただきました。本当に
感謝していますし、一生付き合っていく持病に、親も子も
向き合い方の道しるべを示していただいたのかなと思います。

支援を受けてすぐの頃、なかなか変わらない息子に対して
焦る私に、鈴木先生は「残念ながらこれをやれば、変わる
という魔法の言葉はありません」「子どもを信じて待ちましょう
とおっしゃっていました。その時は「じゃあいつ？本当に変わるの？
信じる根拠は？」と不安でいっぱいでしたが、数ヶ月、毎週と
ぶれずに対応し続けると、命令しなくても本当に変わってきたのです。

息子が不登校になった時、私は「息子が、学校が、友だちが」と不登校になった理由を探し続けました。でも1番の理由は「親」だったのかもしれませんが、『親が学ばば子は伸びる、親が変われば子も変わる』。息子にかかた魔法はこの言葉に尽きると思います。

2年前、あんなに学校に行かないと言っていたのに、今では

学校を休みたくな^いと言っている息子。復学当時は宿題もできず精いっぱいだったのに、徐々に宿題を提出するようになり、そこから親が何も言わなくても息子なりに勉強する意味を見出し、自主的に勉強し、成績を上げていきます。支援前は「言わないと勉強しない、言っても勉強しない」と決めつけていましたが、今は信じて見守ることができるようになりました。

いろいろな選択肢がある時代で、何が正解かわからないけれど、我が家の場合はペアレンツキャンプの家庭教育に出会い、鈴木先生に出会って、家族のカタチを壊すことなく、修正・補正してもらえてよかったとばかり思えます。

これからも親としても学ぶ必要があり、くじけることがあるかも知れませんが、その時はこのペアレンツキャンプの経験を糧に夫婦で力を合わせ諦めずに進んでいこうと思います。

長い下エウで短い2年間、多くの学びや気づき、成長の機会を与えてくださり、ありがとうございます。